

モンゴル カラコルム博物館 日本の専門家と共に開館準備

国際交流基金（ジャパンファウンデーション）では、日本が有する優れた技術や知見を活用し、相手国の文化芸術・スポーツ分野の活動振興及び人材育成支援のため、海外へ各分野を代表する専門家を派遣しています。この「文化協力プログラム」の一環で、青木繁夫氏（サイバー大学）および小林公治氏（九州国立博物館）をモンゴルへ派遣します（2010年10月9日（土）～24日（日）16日間）。

モンゴルのオルホン渓谷西岸に位置するカラコルム都市遺跡に、日本政府の支援（外務省平成20年度一般文化無償資金協力）により、カラコルム博物館が建設されました。同博物館は、モンゴルを代表する博物館の一つとして、カラコルムとその周辺の遺跡から発掘された遺物の展示を中心に、モンゴルの歴史文化を総合的に紹介する役割を担っています。国際交流基金は、2010年11月の開館を前に、博物館員などを対象に、日本の博物館運営や展示物・遺物の維持管理に関する知識や技術を伝えるため、2名の専門家を派遣し、ワークショップや指導を実施します。

「カラコルム博物館開館に向けたワークショップ」

講師：青木繁夫（2010年10月14日～10月17日）全7回

内容：博物館資料の保存修復、博物館の保存環境について

講師：小林公治（2010年10月18日～10月22日）全9回

内容：収蔵品管理と展示・広報を中心に

会場：モンゴル カラコルム博物館およびその周辺

参加者：カラコルム博物館・ウランバートル市内博物館・その他地方博物館の職員



お問い合わせ | 国際交流基金文化事業部生活文化チーム 夫津木 美佐子(ふつき みさこ)

電話：03-5369-6060 FAX：03-5369-6036 E-mail：Misako_Futsuki@jpf.go.jp

講師略歴

青木繁夫（あおきしげお） サイバー大学世界遺産学部教授



國學院大學にて考古学を学ぶ。独立行政法人文化財研究所の東京文化財研究所修復技術部長及び文化遺産国際協力センター長などを歴任。1998年から東京芸術大学大学院美術研究科文化財保存学併任教授。2007年からサイバー大学世界遺産学部教授。

文化遺産の保存修復研究を専門とし、これまでの研究に「金属製出土遺物の保存修復方法に関する技術開発」、「高松塚古墳、敦煌莫高窟やバーミヤン石窟壁画などの保存修復研究」、「発掘遺跡の保存方法の開発研究」など。また、考古遺跡の保存処理方法について特許を有する。

小林 公治（こばやしこうじ） 九州国立博物館 文化財課資料管理室長



東京生まれ。早稲田大学大学院（考古学専攻）修了。同大学埋蔵文化財調査室、山梨県教育委員会の勤務を経て現職。九州国立博物館設立準備室より館の開館準備に従事した。

考古学、民族学（物質文化）を専門とし、九州国立博物館の開館準備を通じて博物館の立ち上げ（展示、収藏品管理、収藏品の貸借ほか）について経験がある。

国際交流基金「文化協カプログラム」とは…

日本が有する優れた技術や知見を活用し、相手国の文化芸術・スポーツ分野の活動振興及び人材育成支援のため、海外へ各分野を代表する専門家を派遣するプログラムです。

過去の派遣事業一覧はウェブサイトをご覧ください。

<http://www.jpff.go.jp/j/culture/human/cooperation/index.html>

お問い合わせ | 国際交流基金文化事業部生活文化チーム 夫津木 美佐子(ふつき みさこ)
電話:03-5369-6060 FAX:03-5369-6036 E-mail: Misako_Futsuki@jpf.go.jp